

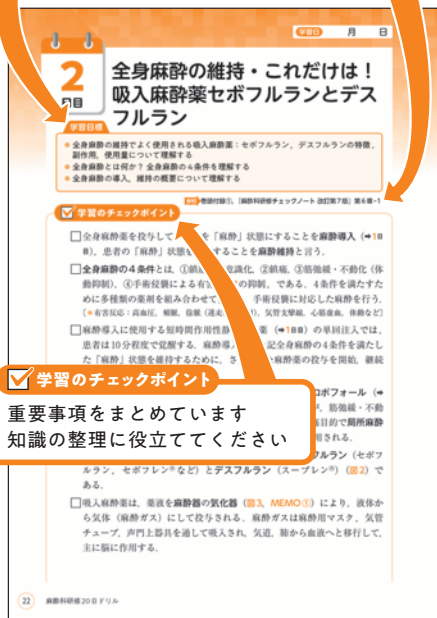
本書の構成

学習目標

各単元で学んでほしい内容を提示

本書と併用することでより実践的な力を身につけられる参照書籍「**麻酔科研修チェックノート改訂第7版**」との対応を示しています

※巻末(139ページ)の「麻酔科研修チェックノート改訂第7版」の目次もご参照ください



ドリル

設問に答えて実践力UP

ドリル

セボフルラン、デスフルランは、麻酔の維持に最もよく使用される吸入麻酔薬である。セボフルラン、デスフルランの特徴、副作用、使用方法などについて記載した下記の文章について、当てはまる語句を選択肢から1つ選びなさい。

- セボフルラン、デスフルランは、【①液体、気体】の薬を、麻酔器に装着された【②専用、共通】の気化器で【③液化、気化】させ、麻酔マスク、気管チューブを通して吸入させる【④静脈、吸入】麻酔薬である。
- 吸入麻酔薬は投与後、【⑤肺、腎臓】から血液中に移行し、【⑥心臓、肝臓】から送り出されて、【⑦肺、腎臓】へ到達して、麻酔効果を発揮する。吸入中止後は、血液中から【⑧肺】を通して呼吸、腎臓を通じて【⑨】へと排泄されて麻酔から覚醒する。
- 両薬ともに効果発現は【⑩早、遅】く、効果持続時間は【⑪高い、低い】ため、吸入開始による麻酔の導入、そして吸入終了後からの覚醒は、すみやかである。
- 吸入麻酔薬を吸入後、上気道の筋内は【⑫弛緩、緊張】して、上気道は【⑬閉塞する、閉塞しない】。そのため、気道確保は【⑭必要、不要】である。
- 吸入により、呼吸は【⑮抑制され、抑制されず】、人工呼吸は【⑯必要、不要】な場合が多い。
- 吸入により、血圧は概ね【⑰低下、上昇】する。
- 吸入麻酔薬を使用し、上気道を維持した場合、プロボフォルタン静注による麻酔維持と比較して、術後悪心嘔吐（PONV、※18頁）の頻度は、【⑱低い、高い】。
- セボフルランのMAC（マック、MEMO⑳）は、およそ【㉑1.2、1.7、6】%である。
- 通常成人には、酸素、気体などの混合吸入ガス中に、セボフルランを【㉒1～3、10～30】%の割合で吸入させ、手術侵襲、患者状態に応じて濃度増減する。
- セボフルランは気管拡張作用が【㉓強、弱】いため、喘息合併、既往患者に使用【㉔できる、できない】。

解答&解説(別冊)

各ドリルの解答は別冊にまとめました。
考え方や間違えやすいポイントの解説付き。



付録

臨床で役立つ表を巻頭に掲載。

- 巻頭付録①：麻酔で使用される薬剤の主な特徴
各種麻酔薬の分類、一般名と、それぞれの「利点/副作用/欠点/特徴」が一目でわかる
- 巻頭付録②：略語表
各略語のワンポイント解説に加えて、通称や読み方も掲載

次ページの学習計画表を活用して、
全単元をしっかりと修得しましょう